


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
た一5	たいさん 大蒜	辛・温・小毒 胃・大腸	9～30g、食服。外用には適量。
中医生薬解説			
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p data-bbox="415 617 583 647">ニンニクの鱗茎</p> </div> <div style="flex: 3;"> <p data-bbox="730 368 1638 439">殺虫 鉤虫、蟯虫に、檳榔子・鶴虱・苦楝根皮などと用いる。 蟯虫には、単味を搗き碎き麻油を少量混ぜて睡眠前に肛門周囲に塗布する。</p> <p data-bbox="730 439 1260 474">止痢 細菌性下痢に、単味を焼いて服用する。</p> <p data-bbox="730 474 1402 546">止咳 肺結核（肺癆）の咳嗽に、百部・紫苑などと用いる。 百日咳（頓咳）にも、単味を搗き碎き服用する。</p> <p data-bbox="730 546 1092 581">治瘡 瘡疾に、雄黄と用いる。</p> <p data-bbox="730 581 1470 617">解毒消腫 瘡癤（皮膚化膿症）の初期に、単味を搗き碎いて外用する。</p> </div> </div>			
使用上の注意 外用すると発赤、熱感、水泡を生じやすいので、長時間皮膚に貼布してはならない。			
中医以外の生薬解説			
<p data-bbox="636 730 1302 765">別録 今念のため蒜と葫との効用を併記すべし。</p> <p data-bbox="898 765 1942 801">蒜；氣味辛温有小毒、主治は脾と腎とに歸し霍亂、腹中不安、消穀、理胃、温中、邪痺毒氣を除く。</p> <p data-bbox="898 801 1879 854">葫；氣味辛温有毒、久食損人目、主治は五藏に歸し癰腫^{じよくそう} 瘡を散じ風邪を除き毒氣を殺す。</p>			
<p data-bbox="636 875 2005 940">新古方薬囊 蒜類は辛温にして中を温め外寒邪を逐ふの力あり、然れ共平常多食する時は陽氣を傷つけ一旦疾病に罹る際は薬効を妨げしむると謂はる、古方に於ては惟だ救急用に解毒劑として供するのみ。</p> <p data-bbox="898 940 1827 976">山椒の實の口を開かざる者を食ひて其毒に中てられたる者を治するには蒜を食はずべし。</p> <p data-bbox="919 976 2005 1047">山椒の實の開かざる者には毒あり、殊に生のものに於て甚し、其中毒せる場合の容態は咽喉塞がりて呼吸困難を起し或は口中より白き沫を吐し手足氷の如く冷えしびれる者あり。</p> <p data-bbox="940 1047 2005 1187">往昔ボクの次女独り庭に遊び居りしが誤って青き山椒の實を喰ひ毒に中てられ苦しみもがき當に死せんとして一家大騒動をした事あり、幸ひに金匱の解毒方のお陰にて病院の世話にもならず無事相済みしが僅かの毒と雖も恐るべきものあるを知らされたり、年寄りの曰く小兒には目が離せぬと、誠に然り。</p>			